

### 「この世で星のように輝き」

今、世界は暗闇に包まれています。争いは留まることなく、強者が自分だけの論理で世界をゆがめています。そのような今だからこそ、私たちは改めて自分の生き方を問い直すのです。

「世の中に迎合するあまり、何か別のものを神よりも大切にしているか」「神ならぬものに囲まれて、神の姿が見当たらないと怯えてはいないか」「暗闇に包まれて、二度と光を見出すことはできないと諦めてはいないか」と。

「丸くなるな、☆星になれ。」は、サッポロビール株式会社が製造・販売するビール「黒ラベル」のブランドメッセージです。黒いラベルに描かれた金色の星を見たことがある人もいるでしょう。

2023年、このメッセージを押し出したコマーシャルが一斉に放送された時、ブランドサイトには次のような文章が掲載されました。「絶えず変貌して前に進もう。いい頃合いで手を打とうとする自分を置き去りに、追いかけてくる自分に捕まらないように。」年齢を重ねて「大人になって」円熟味を増し、

「丸くなる」ことが成熟とみなされる社会にあって、丸くなる自分を真っ向から否定はせずに、前へ進むことによって越えていこうと示唆するイメージです。

また、「丸」と「星（尖っている）」という形の対比は「成熟の丸み」と「若さの尖り」の対比にもつながります。「丸くなるな、星になれ」は、丸くなってきているところから尖りを取り戻していくようなイメージをも持たせるでしょう。世の中に丸め込まれてしまうのではなく、自分を保ちながら、しかし余裕を持って世の中に向き合っていく人こそが「成熟した大人」なのだ、と。

これをそのままキリスト者のイメージに当てはめてしまうのは違うかもしれません。しかし、神と共に歩むという生き方を選ぶということは、どこか「尖った」生き方となるのではないかとも思うのです。もちろん、それはむやみやたらと世の中と対立しろと勧めるものではない。神を中心として生きる時、自ずから世の中と衝突する場面が起こることもあり得るという意味です。

自分自身を神として振る舞う者を目の前にした時、私たちはやはり「神こそが中心だ」と声を上げたくるでしょう。暗闇に包まれて不安の中にいる者を目の前にしたら、私たちはやはり「光はある」と教えたくるでしょう。

私たちは知っているからです。「主があなたにとって、とこしえの光となり／あなたの嘆きの日々は終わる」(イザヤ書 60:20)との約束はすでに実現しているのだ、と。神の独り子イエスは地上に生まれ、私たちのために十字架と復活を示された、と。そして、私たち一人ひとりの内には聖霊が注がれ、私たちを守り、支え、導いてくださっている、と。 (「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」フィリピの信徒への手紙 2:13)

これらの事実を無理矢理世の中に教え込むことがキリスト者の目的ではありません。今、暗闇の中にいると思っている人々に「光がある」ことを指し示すために、私たち一人ひとりには命が与えられています(「地があなたの道を知り／すべての国があなたの救いを知るために。」詩編 67:3)。

その命が「この世で星のように輝き、命の言葉をしっかり保つ」(フィリピの信徒への手紙 2:15-16)ように生きていこうと手紙は勧めています。もっとも、それは決して難しいことではありません。なぜなら、私たちの歩みはすでに星のように輝いているのです(「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」マタイによる福音書 5:14)。それを隠さずに生きるだけなのです(「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである。」マタイによる福音書 5:16)。

それでも暗闇は、星を丸くして覆い隠そうとするかもしれません。「光など無い」と声高に叫ぶかもしれません。

そのような暗闇に包まれている今だからこそ、私たちは臆せず、光を掲げて歩み出しましょう。この光を消すことは決してできないのですから。

